

# 令和4年度学校関係者評価 新居浜市立泉川中学校

## 1 学校関係者評議委員（学校運営協議会会員）

- ・ 篠原 茂 氏（学校運営協議会会長）
- ・ 山本 千明 氏（泉川小学校校長）
- ・ 真鍋 智明 氏（泉川公民館長）
- ・ 石川 武博 氏（泉川校区まちづくり連合自治会長）
- ・ 秦 典生 氏（泉川校区公民館運営審議委員会委員長）
- ・ 原 寿也 氏（地域住民代表）
- ・ 梶本 香織 氏（主任児童委員）
- ・ 山中 俊子 氏（主任児童委員）
- ・ 小山 博規 氏（前連合自治会安全安心部長）
- ・ 太田 初 氏（連合自治会環境美化部部長）
- ・ 山内 光男 氏（連合自治会健康づくり部部長）
- ・ 柴田 雅昭 氏（連合自治会子ども支援部部長）
- ・ 嶋津 貴則 氏（泉川中学校 PTA 会長）
- ・ 中原 真弓 氏（泉川小学校 PTA 会長）
- ・ 藤澤 俊洋 氏（泉川小学校地域連携担当）
- ・ 篠原 淳夫 氏（泉川小学校教頭）

## 2 学校関係者評価結果（令和5年度1月実施）

### (1) 学校からの報告

昨年に比べてほとんどの項目でポイントが下がっている。先生方の評価は厳しいが、学校全体に目を向けた際、出来ていない項目があることには間違いない。

ただ、甘く評価をしたところで何も改善点は見えてこないなので、学校全体で再検討し、今後は教職員一人一人がよりよい学校をつくることを意識して、教育にあたっていかなければならない。

### ア 成果

成果として表れているのが、「いじめのない学校づくり・学級づくりに取り組んでいる」である。教職員が生徒一人一人との関わりを大切にし、信頼関係を構築していく中で、生徒の変容に一早く気づき、対応を充実してきた結果である。常に生徒の活動の場には必ず教員がいることを原則とし、いじめや問題行動の早期発見に努めた。また、教育相談活動をすることで生徒が安心して学校生活を送れるようにも努めた。

「電子黒板やタブレット端末等の利用に積極的に取り組んでいる」については、積極的にICT機器を活用することで、分かりやすい授業へとつながっていると考えられる。しかし、まだまだ使いこなせていない教員もいるので、ICT支援員と協力し合い、研修を深めていきたい。

### イ 課題

アンケート結果を見ると、全体的にポイントが下がっている。

特に気になった項目は「生徒のあいさつはよくできている」である。教職員・保護者・地域は大

きな課題として認識しているが、生徒自身はよくできていると思っている。生徒間のあいさつはできているようだが、どんな場面でも誰に対しても気持ちの良いあいさつができるよう意識させていく必要がある。人として当たり前のことを当たり前にできる生徒を育てていきたい。また、教職員がもっと手本となるようなあいさつができるよう心掛けていく必要もある。

「生徒の学力は向上している」「生徒が計画的に家庭学習に取り組んでいる」については大幅に下がっている。電子黒板やタブレット等のICT機器を活用し、端末を活用する技能を身に付けさせ、基礎的・基本的な知識の定着を図る等、より効果的な学習の手立てをしていかなければならない。また本校の大きな課題として、家庭学習においてゲームやスマホなどを使用する時間が増えているため、計画的に家庭学習を進めていくことができない生徒が多くいる。各家庭で再度その扱いについて確認し、協力してもらえるように連携し、今の時代にあった取組を行う必要がある。

「生徒は、地域の一員としてESDやボランティア等に進んで参加している」については、毎月行われる「大好き泉川」奉仕活動にたくさんの生徒が参加しているが、毎回、参加する生徒は決まっている。作業方法も地域からの要望が多く、決まった作業になりつつあるので、今後、生徒（委員会活動）たちの中から地域にもっと目を向け、自分たちで考え、自分たちで地域を美しくしていくためのやり方を地域に発信できるようにしていきたい。また、日々の生活の中で環境について考える時間を取り、環境教育への意識も高めていく必要があると考える。

## (2) 意見・感想

- ・ 教職員のポイントダウンが目立つように思う。また、保護者と生徒の評価が教職員と食い違っているのも気になった。先生方は熱心に教育に取り組んでいると思うが、その努力が伝わっていないのは残念である。

定例会で地域・保護者との関わりについて議題に上がっていたが、子どもたちのために教職員と保護者・地域が連携を密にして、協力していくことが大切だと思う。

- ・ 挨拶は良く出来ている。ボランティア活動も協力し合って良くできている。学校と地域が実施する行事も頑張って良く出来ている。
- ・ 外から見ると落ち着いていて、文化面、運動面での活躍も多かったと思う。冬の学習会において、よく勉強し、学力の高い生徒が多く見られた。生徒の評価で「7 学力の向上」の評価が低くなっているのが心配である。頑張りを認め、自信を持たせてほしい。教職員の評価で「7 学力の向上」の評価も同様と言える。

地域行事では、星原市、運動会、公民館まつり、ふれあい運動、とうどさんに中学生の協力が必要になる。今後とも協力をお願いしたい。

- ・ 生徒・保護者・教職員の評価が下がっているのが気になる。原因はコロナではないと思う。前回の評価が甘かったのかもしれませんが……。若い先生、ベテランの先生、頑張ってもらいたい。挨拶、しつけ、学校と家庭、地域ともに協力して良い校区にしたい。地域と共にある学校、一緒に歩もう。
- ・ アンケート結果ですが、ほとんどが下がっており、上がっている項目があまりなくて驚いた。今の子どもたちは、大切な中学生生活も制限があり、今までの普通の生活と異なり、慣れるまで大変だったと思う。そのコロナ禍、徐々に生徒会活動や学校行事、部活動が活動できるようになり良かった。保護者同士の横のつながり、先生とのつながり、地域とのかかわりを大切にしたい。人の生き方や将来の夢、生徒たちにしっかり考えてもらいたい。

- ・ 様々な行事に生徒たちが参加することで、教育活動に生かされていると思う。
- ・ 出会ったときに、明るく、元気に挨拶をしてくれて、充実した中学校生活を送っているのだなと感じた。
- ・ 環境美化活動、挨拶、ボランティア等については概ね良く出来ていると思う。コミュニティ・スクールの取組については、教職員の理解が出来ていないように感じる。私たちの取組についても十分にわからないところもあるかもしれませんが、互いに頑張っていきたい。
- ・ 地域の人材が、教育活動にまだまだ生かされていないように思う。これからは部活動の指導者も学校以外の人材がするようになってくる。益々優れた人材の人選が必要になると思う。